

西暦2062年に戦争狂が
介入するようです

ケイ素提督ヲ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ドルフロ世界に戦争屋が混入しました。(デデドン！(絶望)

サーシエスが鉄血をぎゅちゅんちゅん(〇)していく話です

サーシエス「テーマパークに来たみたいだぜ。テンションあがるな〜(バキイ!!)」
イエーガー「?!?!」

・・・異世界サーシエス(ボソツ)

改修入りまゝす（多分ネタ方面）

20200614

（ q ） ハイハマチイ

目次

番外編

番外編・12／24 | 1

メイン

遭遇。ええ・・・(困惑) | 9

何だコイツ | 17

試験 | 25

射撃演習Ⅰ | 36

射撃演習Ⅱ | 48

いざ武器倉庫オ！ | 58

番外編

番外編・12/24

G l l & a m p ; M 4 A 1

『指揮官、メリークリスマス。』パパパアアアン

サーシエス

「フオフオフオ・・・サンタじゃよ（棒）」

S O P M O D II

「すぐく似合ってるよ指揮官！」

U M P 姉妹

『ほらほら、もつと笑顔で！（パシャシャシャシャシャシャ（連射）』

H K 4 1 6

「・・・2人とも、指揮官が困ってるでしょ（パシャツ）」

M 1 6

「久しぶりだし・・・これくらい良いだろ？」

M 4 A 1

「姉さん・・・あまり羽目を外しすぎないでくださいね？」

ST—AR 15

「後で戻さない程度にしておきなさいよ。あと、

416とM4は絶対に飲まさないで？（迫真）」

M 16

「それはフリか？フリだな！（グビグビ）プハーツ、見たかM4！」

M 4 A 1

「えっ、私も？・・・飲みますよ・・・飲みますよ・・・！（チビツ）

うーん・・・（☒ω☒）」

M 16

「（グビグビ）ハイ、416（ズイツ）」

416

「何ヤ（モガツ）んっんっ・・・プハツ、なにすんのよばかああ（トロ顔）」

ST—AR 15

「あーもう、滅茶苦茶よ!!!（白目）」

HK416

「んっ・・・あつい・・・M16・・・」

M16

「ウエツヘツヘツ、もつとあつくしてやるぞお・・・(ハムツ)」

HK416

「ヒヤッ!?ー!ー!?!(声にならない声)」

M4A1

「かわいいですよ416・・・♡」

UMP姉妹

「ンツツツ・・・エツチだぁ・・・／／／(目逸し)」

SOPMOD II

「えろーい!(IQ低下顔)」

G11

「もうだめだ・・・おしまいだぁ・・・(駄目イド顔)」

15&サーシエス

「もうおわりだぁ・・・!!! (制裁 (殴))

HK416 & amp; M16 & amp; M4A1

「「アウチ」」(Ω\&。) チーン)

サーシエス

「えー、勝手に馬鹿騒ぎしようとした奴らも寝た(物理)ので：

さあ飲め！食べ！M16、お前じゃねえ座つてろ。」

M16

「鬼！悪魔!!ぎつちよんちよん!!! 私から酒取ったら何が残るっていうのさ！」

サーシエス

「いや色々残るからな？」

M4A1

「にえへへ・・・♡」

HK416

「えつ、M4、ちよ、やめ、ヤメロオ!!! (酔いが冷めた)」

サーシエス

「M4・・・いいぞやつちまえ！」

HK416

「えっ」

M4A1

「416・・・♡（ハムツ）」

HK416

「ぴやう、あつ、ちよつと、・・・」

サーシエス

「サッー」M4「っ旦

M4A1

「んっ?（ゴクゴク）ふう。（☒ω☒）スヤア」

HK416

「・・・指揮官?」

サーシエス

「ヨシッ!（逃」

HK416

「なんで・・・なんで止めたのよッ!!!」

サーシエス

「いやそつちかよ!ここバーだからな?!やるなら部屋で・・・」

HK 416

「OK! (M4をお姫様抱っこする416)」

サーシエス

「あっ・・・(白目) 言うんじゃなかった。(。▽。)」

サーシエス

「ふう・・・やっぱり仲間と食う飯は美味いなあ！」

G11

「メシウマー(モグモグ)」

サーシエス

「違う、そうじゃない」

G11

「・・・マスター、いつもの2つ。(ニヤ)」

春田

「はい、どうぞ。」

サーシエス

「・・・ブフォツ・・・スピリタスじゃねえか！」

G I I

「(グビグビ) Hurra!!! . . . ほら、指揮官も。ね？」
サーシエス

「. . . あいよ (もうどうにでもなくれえ。(。▽。(」
「. . . 今日という日と今後の繁栄を祈って」

「「T o c t ! !」
乾杯!

サーシエス

「さくやおたのしみでしたね」

M4 & 416

「ピイツ（目反らし）」

メイ

遭遇。ええ・・・(困惑)

俺はー死んだ。

アルケーを降りた後、付いて来た砂野郎(弟)に

一発御見舞してやろうと振りかえったところをズドン。だ。

で、目の前が真っ暗になったと思ったら急激に落下する感覚に

見舞われて・・・

又オアアア!!

選ばれたのは、GOEMON★FURU
落ちた先は、地獄の大釜でした。

「ツ熱ツツツツイ!」ガバッ

・・・何故か目が覚めたと思ったら廃墟のど真ん中に居た。

自分でも何言ってるんだかわからねえって奴だ。

服も昔使っていたつなぎになっていた。

携帯端末が生きていたのは幸いだったが日付表示だけ壊れていた。

S M Gは見た事が無い型だった。3丁あったので破損しても部品には困らないだろう。マガジンの装弾数は30で、マガジンは7本、弾は300発分入っていた。

ナイフも特殊で、太めのグリップの一部が外れて20mmレールに対応した溝が出てくる仕掛けがあった。

一本はS M Gに付けて、残りはぶら下げておく事にした。

ベストは比較的綺麗に残っていた本体に、

他からマグポーチなどを移植した。

二軒目と三軒目には水や缶詰の詰まったダンボールがあった。

缶詰は嬉しいぞ。(。D。)ウメエ

街(廃墟)まで出てみたが・・・

やはりそこそこの規模の集団でも居たらしい。

家屋(廃墟)の中にも少しづつ食糧の残りがあった。

よくある不味いレーションとカロリーバーと

【KAN—PAN】とかいうクッキーの保存缶と焼き鳥の缶詰を見つけた

中の飴、これは良いものだ。

ただしKAN—PAN、オメエは駄目だ。水分がもりもり減る。離れた所の家（廃墟）でカスタムM4を見つけた。

外装は複数のM4を継ぎ接ぎしたのか色が疎らだった。

レイルにはフラッシュライトとスコープが付いていた。

取り敢えず銃剣を付けておいた。

／＼着剣！／

弾倉は付いていた物と一つだけが転がっていた。回収。

その日の夜、遠くで歩く音がして目が覚めた。

（こりや運がいい）

M4を持ち、壁の穴からスコープで音のした方向を見ると数人の兵士が居た。フルフェイスのメット被っているので

顔は判らないが似たような背格好をしている・・・女か

などと思っていたら銃を向けてきた。

「やっべ・・・」

引き金を引かれる前に離れる。そして走る。

さつきまで居た空間を銃弾が抉る。

メット女は俺を見失ったのか棒立ちのままだったので遠慮なく反撃。

頭に被弾している筈だが止まる様子がない。

「おいおいおい、メット硬すぎんだろ・・・」

次は腕に当てた。奴の腕がなんと吹き飛んだ

「・・・おお?」

傷口から溢れる血・・・とオイルと配線が見えた。

(アンドロイドなんて実用化してる国あったか?)

戦争屋としては見過ごせねえなあオイ!

「ま、どこのどいつでも関係なく殺るけどなあ!」

一度壁の裏に戻りSMGを置いた。

代わりにナイフを回収。

民家の屋根の上へ乗り移り、奴らが近くの道を曲がったところで

上から飛び蹴りを食らわせた。

「ちよいさあ!!」

流石に頭が粉碎されれば動かなくなつた。

上から降ってきた俺に思考が追いつかないのか固まったままの残りの2体は心臓を狙ってナイフを刺す。

「まとめてお陀仏つてな！」ドッ

機械女共はそのまま地面に倒れた。

「ふう．．．」

G 1 1

「45、変なの見ちゃった．．．」

U M P 4 5

「k w s k」

G 1 1

「人間．．．のはず。」

H K 4 1 6

「そんなところに？人形じゃないの？」

G 1 1

「いや、センサーだとちゃんと人だって．．．」

だげど屋根から飛び降りてリツパーの頭粉碎してた」

45・9・416

「え」

G11

「ナイフで2体コア停止させたし・・・!？」

UMP45

「G11?」

G11

「げ、見つかった・・・どうしよう416」

416

「可能なら保護しなさい。それか保護されなさい」

G11

「ええ」

サーシエス

「また機械女・・・じゃねえな。おい、生きてるか?」

G11

「んう．．．うう．．．おうち．．．かえりたいよ．．．」
サーシエス

「おい、こんな所で寝るんじやねえ．．．おい．．．
ぬああああ、眠っ．．．」

取り敢えずチビを寝床まで運びきつたら落ちた（ω）

何だコイツ

G I I

「うん．．．ん?!」

目が覚めたらかなり目の前にさっきのおじさんががが
(抱き枕状態)

G I I

「何も見なかったことにしよ．．．(⊠ω⊠)」

目が覚めたらかなり日が昇っていた。Ω\ζ。) チーン
サーシエス

「ぬおお．．．久々によく寝た気がする．．．ウオツ」

いつの間にか腕をチビに抱き枕にされていた。
ゆっくり引き剥がそうとしたがなかなか離れない。
そもそも腕に込められてる力がオカシイ

・・・ナニカサレタヨウダ（痺れてるだけ）
どう引つ張っても剥がれない。

というより剥がした端からしがみついできている。
本当に寝てるのか。

そもそも子供の力じゃねえ。

・・・俺は考えるのを辞める事にした。

「起きろ・・・そろそろ起きろマジデ」

G 1 1

「にゅ・・・もう朝あ・・・？」

サーシエス

「もう昼過ぎだが・・・つと」

やっと離れた。アポイーツと☆（G 1 1「解せぬ」）

サーシエス

「で、寝起きで悪いんだけどよ、嬢ちゃん。なんで草むらに

隠れていたんだ？まさかあの機械共けしかけたとか言わないよな

・・・オイコラネヨウトスルンジャンナイ」

G11

「あれは鉄血の人形。私はG & a m p ; Kの戦術人形Gr G11だよ。」

俺はチb・・・G11から

この世界が西暦2062年だということ

崩壊液・遺跡・大惨事世界大戦のこと

人形と呼ばれるアンドロイド達のこと（G11についても多少。）

黒紫の奴らは鉄血工造と呼ばれる企業の暴走した人形

だということ聞いた。

G11について・・・

やっぱさ、ただの、普通の嬢ちゃんにしか見えん・・・

あと、西暦と言ってもかなり違う世界らしい。

遺跡、崩壊液、大惨事世界大戦 e t c .

元いた2300年代の歴史にこんな事象は無かった。

取り敢えずこの先する事を遅めの飯を食いつつ話した。

まずG11を404小隊と合流させる。

その後運が良ければ404小隊の雇主のG&K社に接触できる。

移動のために、これまでに集めておいた大量のポーチやリュックサックへ物資を詰めていく。ポーチに入り切らなかつた分はG11が持つてくれた。ダンボール箱分詰めたカレーやら簡易調理器具やらをあの細い腕で軽々持ち上げている。見た目とのギャップエ．．．

416

『ザザザツ．．．1!．．．ザツ・G．．．G11、無事だったの?』

G11

「無事だったよ．．．あと凄いおじさんも一緒だよ。」

サーシエス

「おじさん．．．」

416

『そう、なら早く森を抜けてすぐの小屋に来なさい。』

G11

「・・・416は心配してくれたりしないの？」

416

『は？心配するほどヤワじゃないでしょう？』

G11

「え？（・ω・）」

・・・404小隊の仮設小屋にて

G11

「416」

416

「はいはい、よく頑張ったわね・・・」ヨスヨス

UMP姉妹

(・▽・)ニヤニヤ(・▽・)ニヤニヤ

416

「・・・何ニヤニヤしてるのよ。」

UMP姉妹

『いやー平和だなーと思って。』

サーシエス

「微笑ましいのは良いんだがお嬢ちゃん達よお・・・」

UMP45

「そうね。今ヘリアンに連絡をムグッ・・・」

（連絡されたらまずい事でもあった？おちさん？）

サーシエス

（・・・おちさん言うな、近くに複数人居る・・・

多分鉄血？が・・・）

UMP9

（えっ）

G11

（マズい・・・足音がこつちに來てるよ・・・）

サーシエス

（俺にいい考えがある・・・これ被つとけ（スポッ）

・・・カチャッ・・・ガサガサ・・・ガサガサ・・・

イエーガー

A「移動後だったか・・・」

B 「ん？あの箱今動かなかったか？」

C 「まさか、人形が入るわけ無いだろ？」

B 「・・・だよな」

ズボツ

イエーガー

「!?」

サーシエス（箱ガンダム）

「そうよ、そのまさかよ!!!」

＼パンパンパンツ!!!／＼ガンダアアム!!!／

UMP45

「ふう・・・2人が段ボール持ってきてて助かったわね・・・」

UMP9

「し、死ぬかとおもったよ・・・」

416

「でもまさか」

サーシエス&G11

『誰も段ボールに入ってるとは思わない』『だろ』『でしょ？』

試験

鉄血をダンボールに隠れてやり過ごした後・・・

UMP9

「ヘリアンさんに連絡するわ。」

ヘリアン

「その必要はない。表に出ろ・・・迎えに来たぞ。」

パイロット

「本部までご招待するぜ」

ヘリアン

「パイロット、ふざけてないで早く回収しろ。」

移動（撤退（A勝利））

ヘリアン

「君の戦闘能力と指揮能力は是非とも

G & a m p ; K社に欲しい。とクルーガー社長も言っている。」

サーシエス

「是非とも契約させて頂きたいです。」

ヘリアン

「基地にいたら一応試験をする。担当は100式機関短銃。

大日本帝国時代の日本の銃の戦術人形だ。はいこれ」

参考資料

サーシエス

「・・・ふーむ・・・やりますねえ！」

『は?』

サーシエス

「いや、一人で敵陣突って大将討ちとつてくるとか異常・・・」

『生身で頑丈さが売りの鉄血人形壊せる方もかなりヤバいから(ね(な?))』

「え?」

『え』

パイロット

「間もなく到着します。」

ヘリアン

「降りたらまず社長室へ。その後演習場まで」

サーシエス

「・・・MSも無いのにこの広さか・・・」

G11

「モビ・・・なに？」

サーシエス

「独り言だ。気にするな。」

G11

「えく・・・気になるな。」

サーシエス

「教えねえよ（ゲス顔）」

G11

「ミッ（憤死）」 | (: 3) < |

社長室

ヘリアン

「(ん)へ。」

クルーガー

「・・・。」

サーシエス

「・・・。」

クルーガー

「・・・アリー・アル・サーシエス。」

サーシエス

「はっ」

クルーガー

「面白い奴だな・・・気に入った。」

サーシエス

「はあ・・・？」

クルーガー

「見た目はともかく口調、表情、姿勢はそこらの一般人と変わらぬ。

が、内面は真つ黒だな・・・素で話せよ？」(ニヤリ)

サーシエス

「いいんですかい？」

クルーガー

「無論。」

サーシエス

「アリー・アル・サーシエス。ただの元傭兵だ。

志望動機は【戦いを求めて】ってところだな。」

クルーガー

「フツ・・・戦いか！本当に面白い奴だなあ！いいぞ、面接はパスだ。」

サーシエス

「次は実戦で？」

クルーガー

「うむ。100式、」

100式

「失礼します。」

サーシエス

「アリー・アル・サーシエス。

ただの元・・・いや、たった今傭兵になった。」

100式

「100式機関短銃です。今日はよろしくお願いします。」

演習場

サーシエス

「おう。始めようじゃねえか」

100式

「ええ。いつでもどうぞ？」

ヘリアン

「双方、用意はいいな？では始めっ!!!」

100式

「100式、行きます！」

サーシエス

「おらよっ！」

サーシエスは用意しておいたスモーク弾を放った。

100式

「煙幕なんて切り払えば良いんです！」

銃剣で煙幕を切り裂いて突撃する100式

サーシエス

「ちよいさあ!!!」

100式

「なっ!?!(なら距離を取って・・・)『ところがぎつちよん!!!』」

100式

「?!」

サーシエス

「まずは一発!」ゴッ

100式

「ウ”ッ…」

ヘリアン

「二本目!」

サーシエス

「オラオラオラア!!!2丁分の弾幕は避けようもねえだろ!」

100式

「ふ、ふっ……」

桜が舞った。

100式

「^桜接近戦、^逆用意！」

突撃してくる100式に銃剣を突き出したが、障壁に触れて半ばから折れた。

サーシエス「なっ!？」

100式「これで終わりだああああああ!!!」

ヘリアン

「ちよ、ストップ!!!」

サーシエス

「お前、殺す気か？」

100式

「・・・しれっとカウンター決めようとしながら言うセリフ
ですか??それ」

サーシエス

「そもそも試験で本気で掛かってくるとかおかしいだろ?」

100式

「戦術人形の速さに対応して避けれる方がおかしいんです。」

サーシエス

「で、結果は?」

クルーガー

「ああ・・・文句無しの満点だ。」

サーシエス

「・・・いくらなんでも過大評価しすぎなんじゃn」

???

「言ってなかったの?100式はここにいる中で一番目くらいには稼働時間が長い歴戦
個体よ?」

サーシエス

「誰だ？・・・あ”？猫？」

ヘリアン

「ペルシカ、急に猫で現れるのは辞めろと言うのは何回目だ？」

ペルシカ（猫）

「知らんな（プイツ）私は取り敢えずその傭兵君に用があつて来たんだ。」

クルーガー

「ペルシカが人に用があつて動くか・・・明日は嵐か？」

ペルシカ（猫）

「失礼ね。私が人間嫌いみたいな言い方しないで？（震え声）」

サーシエス

「本当のことなんだろう？」

ペルシカ（猫）

「アーアーキコエナイナー（棒）ぴよん

サーシエス

「ぬおつ、急に肩に乗るな！」

ペルシカ

「ほれ、歩いた歩いた。そこのゲート出たら次の角で右ね？」

サーシエス

「わかったから降りろ！肩の上でチヨロチヨロすんじゃねえ！」

G 1 1

「そんな・・・明日は嵐なのですか？（震え声）」（ω，ω，ω）

射撃演習Ⅰ

2062 / x x / y y 07:00

p i p i p i p i p i p i p i p i p i p i / パシツ /

9

「んっ・・・んああ・・・おはよ〜」

416

「おはよう9。11も起きなさい」

9

「起きないと足ツボの刑だぞ〜」

11

「うう・・・あと5f『てみつ』ア”ウツw w w w 起きた！

起きたから!!!らめw w w」

9

「駄目★」ドスツ

11

「はあああ・・・(ピッ) もしもし」

ヘリアントス

「おはようUMP45。次の任務だ。」

同時刻

サーシエス

「んあああああ・・・寝た寝た・・・」

ペルシカ

「んくっ・・・おはよう。凄い欠伸ね」

サーシエス

「は？」

ペルシカ が 添い寝していた！

ペルシカ は 生まれたままの姿だ！ (デデーン)

サーシエス

「何か着ろよ！・・・hurry!!!」 チラツ：プイッ

ペルシカ

「・・・きゃーサーシエスのエッチー(棒)」

サーシエス

「呼び方流れ変わったな（白目）」

ガ チ ャ ッ

カリーナ

「サーシエスさん、おはよーございまっ!？」

サー／ペル

「あっ」

カリーナ

「あっ・・・失礼しました／／」ガチャッ

サーシエス

「ちよ、待っ!?!勘違いだからな!？」

ペルシカ

「・・・よし、食堂行こうか（諦め）」イツモノフク

サーシエス

「ア”ア”、オ”ワ”ッ”タ”：ジバクスルシカネエ！」カッ!!!

サーシエス

「びゃあ〜美味しい」

ペルシカ

「朝から特大バーガーは理解し難いわ」

サーシエス

「逆にお前コーヒーとトーストだけかよ」

ペルシカ

「・・・あなたの基準が可笑しいからね？」

サーシエス

「よくそんなんで保つな？」モグモグガツガツ

ペルシカ

「はぁ・・・取り敢えず今日は午後から射撃場で

少し試射してもらってから午前中は好きな事してていいわよ。」

サーシエス

「おう・・・そんじゃその辺ふらついてるから

時間になったら呼んでくれよ」

ペルシカ

「ん。」ズズツ

サーシエス

「数フロア丸ごと倉庫になってるのか・・・

武器庫でも回ってくるか」

1 番庫

「人形の置き場か？」ボタン

2 番庫

「ここも人形置き場か」ボタン

3 番庫

「補修パーツ・・・うわぁ・・・」バン

4 番庫

「おつ、試作品保管koo・・・ジャンクヤードの間違いじゃないのか？」

中は大小様々な機械や武器でごった返していた。

ある程度踏める面はあるが一步間違えれば頭から武器の山だ。

・・・意外と分類はされていた。その中に読んで字の如くな

剣山があつた。

大剣から巨大十得ナイフまで多種多様な刃物が置かれていた。

あと【MURAKUMO】なるガンダムの剣のそっくりさんがあつた。

それと・・・とてつもなく既視感のある物がいくつか

転がつてる（刺さってる）んだが

どう見ても俺の（奪った）バスターソードです

ありがとうございます。（回収）

どう見てもファングですあ（回収）

ペルシカ

「おっい・・・どこだーい？・・・あ」

サーシエス

「あ」

ペルシカ

「こんな所に籠もってたのかい？」

サーシエス

「色々面白そうなブツが見つかったぞ」ガチャガチャ

ペルシカ

「それ全部剣じゃん．．．何故銃を見なかった銃を。」

それよりはやく射撃場行くよ。」グイッ

サーシエス

「グエツツツ．．．」

ペルシカ

「あと次からは私も呼びなさい？」ジーツ

サーシエス

「急．．．アツハイ」

．．．倉庫の一番奥にオレンジ色の外骨格的な物と

真紅の外骨格的な物が見えたんだが．．．

ナニアレスツゴイツカイタイ（鉄血Ⅱサンオーバーキル不可避）

数刻後

ペルシカ

「じゃー構え。安全？」

サーシエス

「安全。」

ペルシカ

「じゃあ単発3回」

サーシエス

「おう」

パンパンパンツ／＼全弾命中！／

ペルシカ

「おおう・・・バースト」

サーシエス

「おし」

パパパツパパパツパパパツ／＼全弾命中！！／

ペルシカ

「連射」

サーシエス

「ほいっ」

パラパラパラララララツ／＼全弾命中！！／

サーシエス

「いっくんなもんか」

ペルシカ

「わぁお・・・スナイパーの素質あるんじゃない?」

サーシエス

「俺白兵の方が好みなんだけど・・・撃つか?」

ペルシカ

「試作品で良ければすぐに出るわよ?」

サーシエス

「やってやろうじゃねえかよこの野郎」

好奇心>>>超えられない壁<<<トラウマ(死因)

数刻後

ペルシカ

「はいコレ」っ耳栓っサングラス

サーシエス

「確実に普通なライフルじゃないなこれ」

(GNスナイパーライフルだよなこれ(白目)

ライフルを構えるサーシエス

サーシエス

「そらあー！」

ピュウウウウン!!!ピュウウウウン!!!ピュウウウウン!!!

光が的上半分を蒸発させた。

サーシエス

「手持ちビーム兵器でこの威力だと・・・」

ペルシカ

「いや、残念な事にレーザーよ。」

サーシエス

「レーザー」

ペルシカ

「正規軍ならビーム兵器も開発しそうだけどね。」

サーシエス

「軍かあ・・・」

ペルシカ

「軍に行くのははおすすりめできないよ？」

「良くて人体実験の研究材料コースな未来が見える見える」

サーシエス

「ヒエッ」

G 1 1

「あく疲れた・・・あ、おぢさんだ・・・

何アレあのヒトって本当に人間？」

4 1 6

「そりゃ人間に決まってるじゃな・・・

うん、強いおいしい（思考放棄）」

4 5

「・・・勝った！鉄血殲滅完！」

9

「もうおぢさんだけでいいんじゃないかな・・・？」

サーシエス
おぢさんが大剣を振り回していい笑顔で遊んでいた

（ただの試し斬りですよ。H A H A H A ☆）

射撃演習Ⅱ

次の日

サーシエス

「見た目より軽いし良いな」バスターソードブオンブオン

【チャイムが 午後12時くらいを お伝えします】ピッピッピッポーン

サーシエス

「ふう・・・飯食いに行くか」

G11

「・・・は
????? (得体の知れないものを見た顔)」

サーシエス

「ところで、ペルシカよお」

ペルシカ

「ん?」

サーシエス

「あの部屋の一番奥のパワード「えいつ」ムグツ

スー「えいつ」モゴツ・・・」

ペルシカ

「おいしい?」

サーシエス

「(。D。)ウマーイ」

ペルシカ

「え「オ」イ」・・・あれは私が性能重視で作ってる

オモチャだから大声で言わないで。

サーシエス

「研究員のみな「えいつ」モガツ・・・辛えつ?!何を?!」

ペルシカ

「そこにあつた一味唐辛子」

サーシエス

「辛いだけに辛辣(白目)」

まだスプーンには一味がベツタリと付いていた。ゴルア(。D。)

ペルシカ

「大々的にお披露目（笑）する時に貴方にあげるつもりだから。おk？」

サーシエス

「（笑）て・・・で、スペックは？」ニッコリ

ペルシカ

「はいこれ」つたブレット

【試製外骨格01】

装甲材・・・161ab製特殊複合装甲

動力源・・・ペルシカ特製エンジン

・肩部高周波フォールディングナイフ（プラズマブレード）×2

・右背部試製展開式レールカノン

カノン側面部シールド

・右肩部試製斬馬刀

展開時・プラズマブレード発生器

担架時・フォースシールド発生器

・左腕部下部展開式装甲

内蔵型電磁砲

・左腕部側面実体盾

フォースシールド発生器

盾内蔵電磁ウィップ

・腰部マルチコンテナ

試製ビット×6(+2)

(友軍補給用装備)

・背部バックパック

排熱用ウイングブレード

プラズマキャノン

フォースフェザージェネレーター

特殊機能・フォースフィールド

シールド、ウイング、ビットを展開し、

本機を中心に正八面体のフィールドを生成する。

フィールドを一方方向に展開し味方の援護にも使える

・フォースフェザー

敵味方問わずのセンサー攪乱

レーザー装備弱体化。

ビット兵器は良く飛ぶ様になる。

赤黒い光と戦闘力も相まってもはや悪魔。

ペルシカ「フェザーは使うなよ？」

・リミッター解除

一定時間、出力上昇。

時間経過後、バッテリーの再充電完了まで

武装のエネルギーは基本カットされる

(バスターソードは質量兵器と化す)

【試製外骨格02】

装甲材・・・161ab特製特殊複合装甲

動力源・・・ペルシカ特製エンジン

・強化型斬馬刀

展開時・プラズマライフル

・両爪先部展開式高周波ブレード(プラズマサーベル発生器)

・両肩部機銃

・左前腕下部レーザーガンポッド

・左腕部実体盾

盾内蔵電磁ウイップ

・腰部マルチコンテナ

突撃ビット×10

(友軍補給用装備)

特殊機能・フォースフィールド

・リミッター解除(中断可能)

【強襲・空戦装備】(構想)

外骨格用背部追加ユニット

某ショットガンちゃんの羽の発展型

装甲材・・・161ab製特殊装甲

動力源・・・外骨格からの供給(バッテリーによる独立稼働)

プラズマキャノン×2

マルチコンテナ

機首突撃

追加装備・兵員輸送コンテナ 人形5人と妖精

トウルブレンツのようなヤークトの様なナニカ

コンテナ装備で人形部隊ごと飛んでこれる

一応人形でも扱える。

開発許可申請中。

ペルシカ「まだ？（材料を手元に揃えつつ）」

サーシエス

（ほぼスローネとアルケーじゃね（白目）

ペルシカ

「ちなみに試製斬馬刀は振り回してた奴ね。」

サーシエス

「このジツテ状になるレーザーナイフは？」

ペルシカ

「それはビットの実験機・・・に持ち手を付けたブツ。」

サーシエス

「なんでまた持ち手なんぞを付けたよ・・・」

ペルシカ

「実体盾は複合装甲を採用してるわ。」

サーシエス

(カツチカチやぞ・・・)

ペルシカ

「ブレードは特殊鋼に電流を流して剛性を高めてるの。」

今は待機状態だから灰色だけど起動すると赤に変わるよ。

巨大万能ナイフは超音波ブレード・チエーンソー・

パイルバンカー・レーザーナイフ・溶断破碎クロー・

グレネードランチャー内蔵よ。

外装は特殊防弾板だから強度も確かよ。」

サーシエス

「フアー(思考放棄)」

ペルシカ

「投げナイフは爆薬内蔵してるからばら撒いてポンッ

なんてこともできるのよ。(ニッコリ)」

サーシエス

「咲夜さああああああん」

ペルシカ

「サクヤさん　i s　誰よ」

サーシエス

「叫ばないといけない気がしたんだよ。

それよりよお、随分物騒なもの部屋中にばら撒いてたのな

ニツゴリ（。▽。）」

ペルシカ

「私とあなた以外入った人は居ないから問題ないわ。」

サーシエス

「違う、そうじゃない。片付けに行くぞ否行かせてください」

ペルシカ

「だめよ。」

サーシエス

「フオーロミーー！」

ペルシカ

「時間と場所を弁えろネ」

サーシエス

「Let, sGo (マ〇オ風)」

ペルシカ

「nine (いいえ。)」

サーシエス

「・・・GO！」

ペルシカ

「・・・私は犬じゃない。」プクー

サーシエス

「・・・猫は抱えて連れて逝くう」ズザザザ

ペルシカ

「字面が違う気がしたけど気のせいだと思いたいなギニヤアアアアア」

いざ武器倉庫オ!

サーシエス

「武器の）テーマパークに来たみたいだなーテンション上がるなー」

(ニッコリ)

ペルシカ

「ひどいめにあつたわ(白目)」

目標(建前) 武器の山を整理

本音(目的) 物色のお時間だからあ(ペルシカ「なっ?!」)

サーシエス

「これ見るとよお…なんであの時死ななかつたんだろうなあって思うわけですよ」

ペルシカ

「うん」

サーシエス

「トラップの山じゃん」

ペルシカー

「セヤナー」

サーシエス

「・・・YOUなんでビーズクッションになってるの」

ペルシカー

「・・・ニーチャン」

サーシエス

「????」

ペルシカー

「ヤー（状態変化）・・・（無音で迫って来る謎のモザイク）」

サーシエス

「あ。（SAN値！ピンチ!）」

ペルシカー ペルシカ

「ヤー（状態変化）忘れなさい。」

????????
サーシエス

「（宇宙猫状態）」

数時間後

ペルシカ

「だいぶ整ったわね」

サーシエス

「そうだな・・・ていうかこんな試作品作るって

どんだけ暇なんだよ」

ペルシカ

「そりゃあ毎日新しい娘作れる訳じゃないから暇も暇よ」

サーシエス

「あつ（察し）」

俺が使いそうなものが

サムライソード二振り（地面に刺さっている）

ガンカメラ（銃剣付）

外骨格用な物が

GN-Xのライフル（とオプションセット。ランス用パーツまである）

GN-Xのシールド（フォースシールド発生器）

トゲ付き鉄球（トゲが緑色に輝いている）

サーシエスは アゲヤゲヤゲヤゲヤw w w（。▽。） と聴こえた気がした

サーシエス？（^q^）アイエー?!クソガキナンデエエエ?!

気を取り直して・・・

四枚刃の棍棒（長、短×2）

異常にでかい上に中心に砲がつけられた四枚刃の棍棒

折畳式滑腔砲

槍みたいな弾と大型レールガン

巨大農具（スコップ、鍬、ピッケル）

そして・・・

パイルバンカー（杭の辺りが緑色に輝いている）

緑
色
に
輝
い
て
い
る

(

??

)

サーシエス

「これバケ^崩モノ直^壊行^液だろ・・・？」

ペルシカ

「生身で撃ち込まない限りへーきよ。安心安全の私お手製。」

サーシエス

「オイオイオイ、使ったら俺死ぬ奴だったわ（絶望）」

ペルシカ

「敵しかいないような場所なら使えるわね。外骨格とセットで」

サーシエス

「普通の地区で使うとどうなる」

ペルシカ

「知らんのか」サ「知らん」

ペルシカ

「使用者もろとも対消滅する。被害は出させないわ。」

サーシエス

「オイオイオイ、やっぱ俺死ぬ奴だったわ」

ペルシカ

「あなたは死なないわ。私がしばき倒すもの。」

サーシエス

「おお、こわいこわい」

ペルシカ

「こわいから外骨格アルケータインにつけておくわ。」

サーシエス

「・・・何だその最終鬼畜な装備」

ペルシカ

「でもシステムがどうも上手いこと行かなくてね…

まだビット全機同時に動かせないから

そこまでじゃないわ。」

サーシエス

「・・・あつ」

ペルシカ

「なに?」

サーシエス

「最高に使える奴があるぞ（ニヤア）」

「ハロだ」

「はろ?」

ペルシカ

「もし、これじゃないか？」

紫ハロ

「オロセ！オロセ！」（#、ω）パタパタ

ペルシカ

「また逃げるつもりでしょう？駄目よ。」グワシツ

サーシエス

「・・・なんでいんだよお前」

紫ハロ

「イキテタノカ：イキテタノカ」（・ω・、）

ペルシカ

「G11が貴方を見つけた辺りを調査させたら転がってたから

復元（魔改造）したのよ。」

サーシエス

404ファミリ

「あいつらか・・・」

ペルシカ

「そう。ついでにあなたまで拾って来たわ。」

サーシエス

「ついにかよ…ていうかよく修理できたな。ほぼ3世紀は技術が違う筈だが…」

ペルシカ

「いや、中は壊れてなかったわ。」

外装は割れてたから新調してあげたけど」

サーシエス

「はえくそりやすつごい（凄い）」

ペルシカ

「この技術の塊を普通の樹脂外装で置いておけるあなたの世界って何よ（白目）」

サーシエス

「元々ホビーメカだしなあ…」

ペルシカ

「は？流石に冗談でしょう？」（。D。）

サーシエス

「・・・こいつソレスタルなんだし中身も別物か」

ペルシカ

「ソレスタルなんたら is 誰？」

サーシエス

「ガンダム（迫真）」

ペルシカ

「ガン・・・ダム・・・？」

紫ハロ

「テヤンデイ!!!」パタパタ（・、ω・）パタパタ